

# 隠居慣行および隠居者生活

## ——長野県諏訪郡瀬沢新田の事例

早稲田大学大学院 張 佩苓

### 研究目的

第一に、隠居についての研究は日本の研究者によって多くなされているが、外国人研究者からの研究はほとんどない。本稿は同じ東洋の国でありながら、社会制度と文化の異なる中國人の立場から、隠居の特質を探ってみたい。第二に、隠居の定義、概念およびその類型、意義はそれぞれの研究者の視点によって規定されているが、本研究はそれらの規定のものに頼らず、実地調査で得た隠居の実態を明確にかつ詳細に記述し、よって隠居の定義、概念、類型などの再検討する基本的な事実を提供したい。第三に、隠居の現代的な意義を考察する。同時に、そのことが急速に高齢化社会に進みつつある中国にとって何らかの参考になるのではと考えてみることにする。

### 調査地概要

瀬沢新田は八ヶ岳南麓の海拔 1000m ぐらいの高冷地村落である。現在、行政上では富士見町の一つの区になっている。明治 22 年に実施された町村制に時期には、他の 11 カ所と合併し落合村に編入され、瀬沢新田はその一大字集落として位置づけられた。しかし、この間瀬沢新田は一つの自然村としての自律性を保持して現在にも到っている点も見逃すことはできない。

平成 4 年 6 月現在総戸数 165 戸（人口 687 人）で、そのうち隠居のある家は 58 戸である。全体の約 1/3 の割合である。

### 調査期間、対象、方法

この実地調査は 1992 年 6 月から 1995 年 8 月現在まで断続的に行われている。調査対象は村全体の 165 戸のうち、隠居者のいる家 58 戸を直接の対象としている。調査方法としては細密な世帯調査票による調査と併行して、隠居者調査票による面接聴取調査および一部隠居世帯事例調査によって行った。

### 結び

瀬沢新田で村を上げて積極的に隠居慣行が受け継がれている根底には、日本の「家制度」、日本人の「家」に対する執着があると指摘できよう。

勿論、今日の隠居は時代の変遷とともに変容してきているが、現代的な隠居の意義を考えれば、隠居制は高齢化社会の老人天国と評価できよう。そのことは急速に高齢化社会になりつつある中国に大いに参考になればと期待している。